

## 京都府亀岡市で確認されたヒメカマキリの記録

山下航平・大秦正揚

ヒメカマキリはハナカマキリ科ヒメカマキリ亜科に属する樹林性のカマキリである。一般的な体長は2.5～3.2 cmであり、草地性の小型種であるコカマキリと比較してもさらに小さい(日本直翅類学会, 2016)。京都府での確認情報は相楽郡と京都市に限られた準絶滅危惧種であり(京都府, 2015), 京都府における確実な記録は少ないとされている(中尾, 2022)。本稿では, 京都府でこれまでに記録のない亀岡市において本種を複数個体確認したので報告する。



図1. ライトトラップのシートに掴まるヒメカマキリ。

2023年9月13日, 京都府亀岡市の某所樹林内(準絶滅危惧種指定であることを考慮して詳細は記載しない)において, 20:00～24:00までのライトトラップ(カーテン法)調査を行ったところ, 本種が2頭確認された。確認された時間は20:40と21:55であった。確認された2頭の内の1頭の写真画像を図に記す(図1)。体長が3 cm前後である小型のカマキリであること, 確認時期が9月であり近縁種サツマヒメカマキリの出現期(5-7月)と異なっていることから, ヒメカマキリと同定した。本種の亀岡市での確実な報告記録は今回が初となるが, 個人のホームページではすでに発見確認事例が存在する(「アタの雑記」<https://atanote.blog.fc2.com/blog-entry-250.html> /2024年1月22日閲覧)。また, 兵庫県の2015年版レッドリストで要注目種として取り上げられていた本種は, 2022年版では「生息地の環境は普遍的な雑木林等で, 各地から情報がある」として削除されており(兵庫県, 2022), かつ兵庫県以外の京都府の近隣府県ではレッドリストへの記載がない。これらのことから, 今回報告した季節と時間帯に樹林内でライトトラップによる調査などを行えば, 京都府の他所の樹林内においても, 本種がひそやかに個体数を維持

して生息していることが分かるかもしれない。

### ○参考文献

- 中尾史郎, 2022. ヒナカマキリとヒメカマキリの京都市における最近の記録. 京都府立大学学術報告 生命環境学, (74): 21-22
- 日本直翅類学会(編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス.
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課. (<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0225.html>)
- 兵庫県, 2022. 兵庫県版レッドリスト 2022. 兵庫県環境部自然鳥獣共生課. (<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/application/files/2816/8429/7316/d3754a971baa12dcf89737bfd57cb7f.pdf>)

(Kouhei YAMASHITA 京都先端科学大学)

(Masaaki OHATA 京都先端科学大学)

## ケブカマルクビカミキリを西宮市で確認

小西和夫

2024年4月11日, 西宮市(仁川町)でケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* Hayashi, 1972 を1ex. 確認したので報告する。

甲山の裾野から広がる丘陵地帯にネズミサシが点在しており, この数年春先に掬っていたが今回初めて網に入った。



図1. 西宮市産ケブカマルクビカミキリ(2024.4.11).



図2. ネズミサシ(西宮市仁川町).

兵庫県内では三木市, 宝塚市, 神戸市, 三田市などの記録があるが, 西宮市では初の記録になると思われる。

三木市の報告(三木, 1979)では「本種は幹がまっすぐ上に伸びた建常木からは見出されず, いずれも道路際などの, 地を這うようなひねた木の直径2~3cmほどの枝部分から落ちた」

また京都府の報告(小西・新野, 2018)では「大半の個体は他の植物に囲まれて根元が日陰になっている高さ2~3m程度の木のやや上部から得られた」とあるが, 今回は幹がまっすぐ上に伸びた健常木(6~7m)の枝葉から得られた。

#### ○参考文献

- 小西堯生・新野晃一郎, 2018. 京都府におけるケブカマルクビカミキリの新産地および生態に関する知見. 月刊むし(572): 22-24
- 廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ.
- 三木進, 1979. 兵庫県でケブカマルクビカミキリを採集. ELYTRA, 7(1): 16

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)

## 尼崎市でキマダラコヤガを確認

外村俊輔・上森教慈

キマダラコヤガ *Acontia trabealis* (Scopoli, 1763) は, 国内では北海道から九州にかけて分布するが(岸田, 2011), 主に河川敷などの良好な草原環境を選好する(京都府環境部自然環境保全課, 2015)ため, 生息域は局所的であるとされる. 幼虫の寄主として国外ではヒルガオ科のセイヨウヒルガオ *Convolvulus arvensis* L., 国内ではヒルガオ *Calystegia pubescens* Lindl. の葉が知られている(岸田, 2011; 手塚, 2019). 兵庫県内では近年まで記録がなく(高島, 2003), 2018年に小野市の加古川河川敷で初めて発見された(柴田, 2021). 今回, 筆者らは尼崎市の西武庫公園で本種を確認したため, 兵庫県内の新たな分布記録として報告する。

西武庫公園は武庫川河川敷に隣接する都市公園であり, 市民による分区園(花壇)がある. 筆者のうち上森が2023年8月18日の17時ごろに分区園を訪れた際, オミナエシ科のオミナエシ *Patrinia scabiosifolia* Fisch. ex Trevir. の花に訪花する本種を発見した(図1). 上森は以前から本地域のハチ相を調査しており, 訪花昆虫に注視していた. 今回, これまでに見覚えのない蛾を発見したため, 筆者の外村に写真を送り同定を依頼した. その後, 写真を確認した外村が本種と同定した。

1ex., 兵庫県尼崎市武庫元町西武庫公園, 18. VIII. 2023

本稿を執筆するにあたり, 文献を恵与いただいた長田庸平博士(大阪市立自然史博物館)に厚く御礼申し上げます。

#### ○引用文献

- 岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑II. 学研教育出版, 東京. 416 pp
- 京都府環境部自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデー



図1. オミナエシに訪花するキマダラコヤガ.